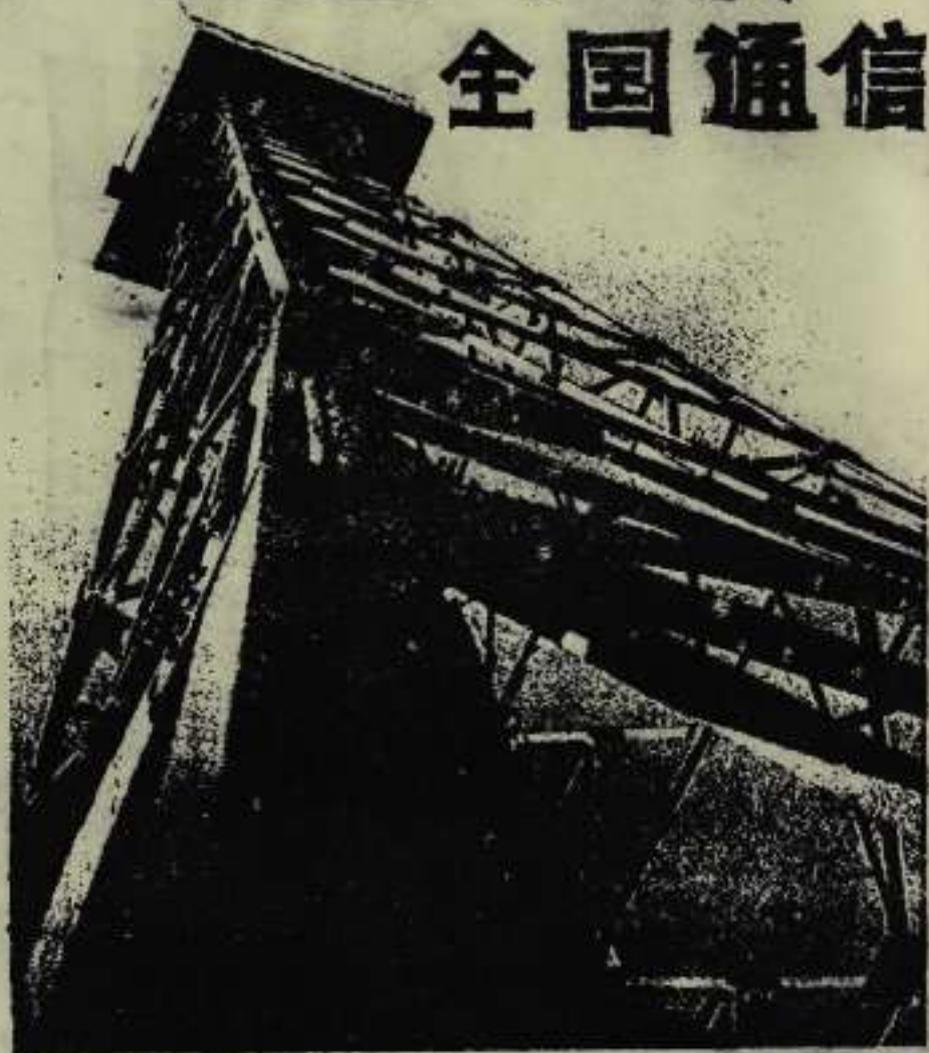


# 三里塚



全国通信



反帝戦線(全国委員会)  
三里塚 現闘白旗 団結小屋

全国の同志諸君へ

日帝「政府」空港公団の

鉄塔破壊「反対同盟」青行の

組織解体「早期開港策動」の暗

暗する三里塚現地から、鉄塔

死守「開港阻止」に向け全

国各地での戦闘体制の

構築と、三里塚現地の

闘いへ、裁判斗争への

圧倒的追撃を訴え、我

現斗より全国の同志の

手元にこの全国通信を

発します。

まず、無急の報告しなけれ

はなりません。

八月十八日、木村武三里塚

芝山連合空港反対同盟副委員

長が急死されました。

哀悼の意を表すると共に、

空港粉砕へ向け新たなる決

意を固め進撃していこうで

はないか。

同志は、文字通り反対同

盟の、三里塚斗争の最先頭

で斗かわれ、持病をかかえ

ながら反対同盟の組織化

# 発刊に

## あたって

組織強化に尽力され、更  
には、我同盟・反帝戦線  
(全国委員会)の三里塚  
現斗活動の実践的転換・  
飛躍・発展を総始一貫し  
て慧眼ある激闘・援助を

### 目次

※ 発刊にあたって	-----	P 1
※ 資 材 輸 送 道 路 建 設 阻 止 斗 争 始 ま る	-----	P 3
※ 全 国 か ら 鉄 塔 斗 争 に 統 決 起 を	-----	P 5
※ 三 里 塚 斗 争 に 対 す る 弾 圧 体 制 を 解 体 し よ う	-----	P 11
※ 三 里 塚 斗 争 史 (I)	-----	P 19

授まわりました。

我々は、同志から学んだあの戦斗精神と斗いの組織化を受け継ぎ、反対同盟との支援共斗関係を打ち固め、それを基礎にして更なる飛躍を勝ち取る斗いへと邁進する決意を固め本誌を発刊します。

全国の同志諸君へ

すでに現地では、鉄塔死守戦が開始された。

10、10三里塚空港紛争全国総決起集会は、三里塚現地に於て、反対同盟・青年行動隊・婦人行動隊・老人行動隊を中心に、全国から労働者・学生、農・漁・住民斗争の代表者、革命的左翼5000余名を箱集して斗いとられました。71年9・16斗争に登りつめ

た地平を一步も譲り渡すことなく全国へその戦線を広げ、

戦場を広げた。そのことは、高浜入宅拓反対同盟、新聞画国際空港建設に反対する住民連絡会議など各地で斗いわれている住民斗争との結合を深め、自らをその全国住民斗争の指導的位置への飛躍を自覚的に勝ち取ったものであり、であるか由に両塚空港公団理事をして「予想外の参加者」と言わしめ更には、「鉄塔除去の作業などには、公団としても相当の人数を動員しなければならぬ」と言い

鉄塔破壊用道路建設、暫定パルケインテグレーション再開発、横堀一本の根を貫く建設、資材輸送道路建設と新たな攻

撃をかけてきています。

この攻撃は、過去十数度にわたる「開港宣言」の破壊と反対同盟を中心とした戦斗体制の構築の中にあつて、反対同盟・青年行動隊・革命的左翼との分断なしには、一歩も進めないものとして、今井から大塚に公団総裁を交え体制を組織し直し必死の思あ

かきである。日幣的な政治警察、機動隊の徘徊、白色テロ攻撃を強めると共に新全統一総合農政一農振法攻撃と、対九自決戦裁闘争に對する確立方針とあけゆる手段を駆使し組織解体を策めています。この様な中、断固たる戦斗宣言として本誌を発刊します。

# 資材輸送道路建設阻止と鉄塔死守

## 闘争の

開港策動が、破綻に破綻を重ね、その危機を何となく乗り切らんとする公団は、遂に二期工事区内に重大な攻撃をな

工事の、三三〇〇メートルの横堀用滑走路建設のためのものであり、来年四月完成を、公団はメドにしています。

盟各部落の共同耕作地をつぶし、同盟の団結をつぶすべく、オマニにより根本的には、次のようなものとしてあります。すなわち、開港策動の破綻と、反対同盟を中心とした公団包囲網の中で、手を付けられる所から手をつけて、二期工事を進め、少くも同盟を包囲し、「右ウ駄目だ」と

鉄塔除去の見通しは一切たらず、一〇〇〇メートル滑走路は公団割れし、空港内諸設備はワセツキ、修理を急を要する中、公団は手をつけられる所から手をつけ、反対同盟を包囲解体せんとしているのです。

以来全面ストツクとしているイヌライン工事再開とそのマヤンヤーンと一体となつて、横堀用滑走路建設の下準備を行つたことによつて、何れも空想建設が、前進しているかの如く、その危機をインヤイ

と叫ぶこととす。そこそこのことにより、同盟の解体を狙い、開港策動をスリルスに行

二期の資材輸送道路は、二期

道路建設予定地にある、同

期

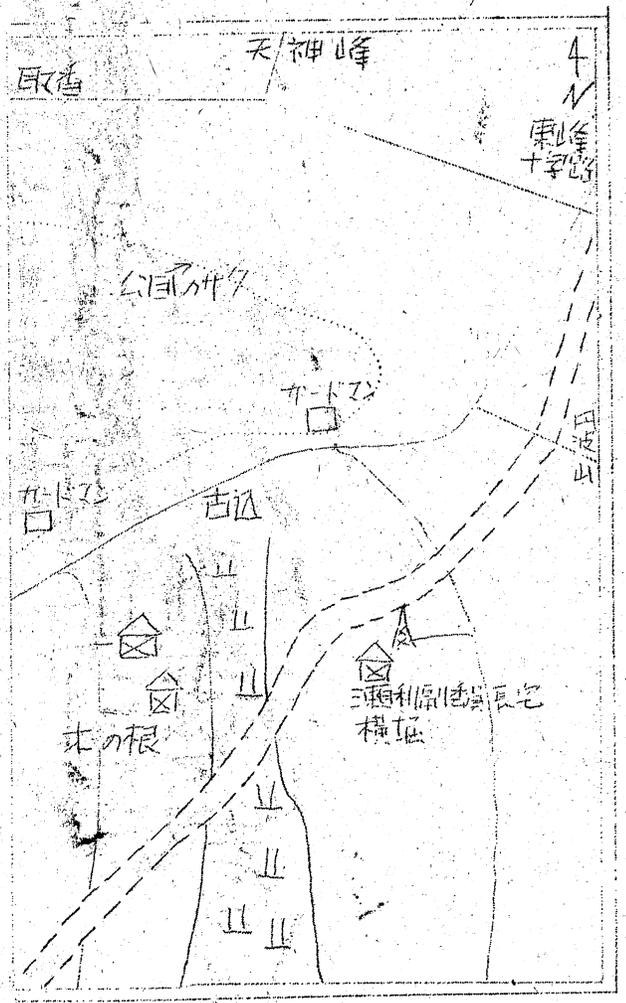
はんしとする攻撃であると見えます。

また、この間の公団の攻撃は、なによりも同盟の思想的政治的組織的解体を基礎におこなっている点で、戦略的な攻撃をなげきているのです。

既に、十月二一日を皮切りに公団の測量班が、二期工事区に侵入してくる度に、公団の「測量は勝手にすませたい」といつ断言を一笑にふて、果敢に斗争を展開してきます。建設予定地の列る所に、直材輸送道路建設を阻止の立巻をたて、二四日には支援学生一名の不当逮捕を許しはじめる。公団の測量もまた半ばはとあります。現地では

、横浜反対同盟を中心に、公団の二期工事区域内への侵入を一挙許さぬ決意を固く、道路予定地沿線の監視体制を強化してきます。二期工事のつらなりをうくらんとする公団の破産は、目に見えてくる。

我々の現斗団は、二期工事区域内二四戸反対同盟と敷地外反対同盟との団結を一層強め、このおれんとくしている反対同盟と固く連帯して、二期の直材輸送道路建設を断固として、阻止していく決意であります。



# 全国から鉄塔斗争に

## 総力決起を

既に現地に於る岩山鉄塔撤去の策動は増々熾烈になっていきます。公団は、撤去用道路建設工事を急ピッチで進め、一方で、鉄塔下、岩山部落の切り崩しを計らんとしています。公団は、我々の斗争に焦りに焦りを重ね、敷地の三又により回向以求全面又ドックになっせけるゆいあライン工事の用脚を輿と一体となつて秋々に狙っています。公団

は、「開港をこらえよう」の唯一妨害鉄塔があるからだと、ゆいあライン工事のまをいんをいし、その責任を鉄塔一反対同盟になすりつけ、キャンペーンをはり、その孤立化を計っているのです。六日未、反対同盟は着々と戦い進意を固めていきます。

公団のなげこくる、「もうためた」といった攻撃に屈服する那行な横行する中で、増々我々は、三里塚芝山連行空を反対同盟と確固として連帯してこねなければならぬと決意します。

全国の同志諸君は鉄塔斗争は開始されていきます。我々すべての同志達な鉄塔斗争に総力決起する、その糧として、これ迄の鉄塔をめぐる政府



塔掘りに及び、レールを築き、二四時間の防衛体制の打ち固めと、重には、全国への鉄塔十万人員有化運動を展開し、布陣を固め、10ノ10現地決起集会への成功を乞ふまて、鉄塔斗争に臨みつつあります。重に又、九、一六以後政治警察機動隊の現地徘徊が恒常的なものとなり、定期的に鉄塔に立ち寄り、顔写真をとったり、あわよくば入り内に侵入しようとする彼らを迎えうづ体制を強化してきます。後にも述べますな、撤去用道路建設の爲の荒地転用阻止斗争において、政府一公団一警察は、まごつくネツチ上げ逮捕を行い、事前強圧を及ぼしてきています。我々は一切の

弾圧を新辟し、なつ難任にも屈しない体制を益々強化しつ。更に我々は、政府一空港公団な、あの日本共産党とその翼下の条件派のように対抗同盟の覚悟を固し、そのことを通じて鉄塔撤去をスナブ行なわんとすることに注目しておなねはなりません。日帝は反対同盟を六七年日帝と訴別して以来、一貫して日帝を育成し条件派、養成系等々と反対同盟を包圍しその斗争思想を解体せんとしてきたな、全く鉄塔斗争をめぐつても同じです。鉄塔は別名騒音監視塔といつた、公団は又ルシヨワメ又ゴミを通じ、今後の

つ、鉄塔斗争を総力を打ちぬいて、このうちはありましてな。運動は空港反対なら騒音へのみへ反対への盛り上がりへとキャンペーンを流し、ひたすら反対運動の条件斗争への変質を願望していることを吐露してきます。公団に「空港を早く開港してくれ」と要請し、鉄塔撤去の攻撃を要請して、日帝の平和塔路線のようには鉄塔を収指しようとして、日帝の平和塔は今、撤去用道路建設工事な始まっている中、三里塚空港に平和塔なる看板をなだけ、その醜態な姿をさらけ出しています。平和塔は当初反対同盟

# 日帝的変質狙う日帝

支援とカンパを軸に四〇〇〇メートル滑走路に建設されたな、日女一平和塔奉賛会は、公団との話し合いにより、三二平和塔を空港敷地外に建ててもらい、あけくの罪を、金細で防衛を頼んでくる仕まなのです。

わらず、彼らこのヨリなら逃れ、逃れてくる日相見主義者どもとも断固たる方針をなすこと

こ、鉄塔斗争に勝利して、このうちはありましてな。

## 鉄塔撤去用道路



建設粉砕

我々は文字通り裏切りと敵への屈服の泥沼路線をひたすら歩み、三里塚斗争に敵対する日女を断固として粉碎していくかねはなりません。重に又、七一年九月のヨリな、日女条件派との組織的、政治的思想的分岐一斗争を勝ちとったことにより実現され、我々の自身な、こうなった社会排外主義者どもと全面対決する二ことなわれこれにともな

政府一公団は鉄塔撤去の前段として今、その撤去用道路建設工事を行なっています。去る五月三〇日芝山町農会を覆収し、岩山地区関係住民を完全に無視、欺瞞し、わすな五分間を機動隊の手を借り強行採掘を、公団は行なわれせました。その内容は、

間に水田を埋めたて、幅と、五メートル長さ二〇〇メートルの撤去用道路建設を認められたのです。わすな五分の強行採掘に彼ら保守系議員達は逃れてこまいったのです。そこで我々は、六月四日夜農業委員会会長宮崎弾斗争をなけました。これを空砲口に鉄塔斗争な爆発して行くことを恐れた敵

権力は六月二〇日全くのテッ上げ逮捕二名と取り入れ青行隊を二ヶ所と団結小屋四ヶ所の弾圧をなけ、鉄塔斗争を封じようとしたのです。しかし我々は二名の同志を奪還し、七月二日、増々鉄塔防衛体制を強化して行きます。

公団の撤去用道路が岩山地に管理権のある農道を切断し、同盟の水田に工事の土砂が流れ込むのも至極です。公団の突貫工事の結果、既に幾度々の雨で、流れ出した泥が水利用の溝にたまったことあり、この斗争を既にこちら側にも有利な状態を生み出さ

れます。鉄塔防衛隊は二日二回の岩山地区の夜ト口ト世でもって

部落内の公団の徘徊を許さず又、公団を若手に一切手をつけることのできる農道への侵入を断固として貫徹して行きます。

現在、農道侵入を拒む作業員とそれを防衛する機動隊と鉄塔防衛隊の間には断固たる対峙関係が形成されていま

す。我々は鉄塔撤去の前段としてあるこの撤去用道路建設工事を粉碎していなくてはなりません。

もとより政府公団から建設工事を焦って来たところの展望が明るくなるわけを全くなく、彼ら公団の早

期開港も全く見通しのないものとして存在して行きます。だからこそ、必死で、運輸省、県、市当局と一体となつて、ハイアライン工事の再開をとりつけ、それをまるで、鬼の首をとりた如く、宣伝して行きます。

我々は彼らのその現状を増々窮地に追い込んでやり、空軍建設を粉碎して、公団の、面目を完全に潰してやるうちはありません。

全国の同志諸君も既に鉄塔斗争は開始されて行きます。早急に全国で鉄塔撤去阻止斗争の体制構築を。

# 三里塚闘争に対する弾圧体制を解体しよう

## はじめに

全国の同志の皆さん

機動隊の名のせいで減という

東峰十字路での三川を頂点と

した7月9日の第一次執行

粉砕斗争（いわゆる三里塚力

同決戦）以降、権力は、三里

塚斗争に対して、三里塚斗争

史上これまでにならぬ弾圧を

なけてきました。その一つは

現地において、それまでの

いわは半解放区的状況を解体

してこまじ、機動隊をひきつ

れた政治警察が日常的に徘徊し、反対同盟、青行隊や各団

結小屋に常駐する者を監視、

包囲し、斗争破壊を虎視眈

々とねらうて行っているとい

う六時中の弾圧体制をひいた

こととす。

また、いま一つは、革命党

派の活動家や労働者、学生

大量逮捕と起訴であり、7月

12日8日なら始まった青行隊

に対する、東峰斗争の「犯人

」としてこのテッ子あげの大量

逮捕と起訴の攻撃です。これ

は、三里塚斗争を三つ者共犯

罪者あるには青行隊殺人キ

ャンヤーンと一体のものとし

てなけられませんでした。そ

て今、その裁判を弾圧の継続

として千葉地裁で行なわれ

て行きます。

これらの弾圧は、単なる事

後弾圧ではなく、権力な反対

同盟、青行隊の組織を力い

て維持、強化されていくので

ある継続的な弾圧なのです。

であるが故に、三里塚斗争を



九月決戦裁判の開始と前後して、三里塚関係の一連の裁判（御参照）において検事と一体化した裁判長の強権的訴訟指揮が強化され、裁判の事務処理化による審理促進の攻撃が強められてきました。権力は、三里塚斗争を斗う戦士を「被告」として裁判の場へ引きずり出し裁くことにより、三里塚斗争を単なる刑事事件におとしこめようとしているのです。そして、戦士を徹夜して消もつさせ、三里塚斗争の意義に正当性を見失なわせ、三里塚斗争の圧殺をねらっているのです。

とりわけ東峰裁判は、青行隊に対する集中的な大量逮捕と長期勾留という大弾圧の従

続として、青行隊員の多くを「被告」として裁かんとしていきます。権力は、東峰の斗いを単なる殺人事件におとしこめ、三里塚斗争全体から切り離し、実力斗争・武装斗争として斗なわけてきた三里塚斗争が権力にとつてつごうの良し平和的な斗いに変質することをねらひひいては、三里塚斗争全体を抹殺せんとしています。そして東峰斗争の「被告」として青行隊員の多くをデッサンあげることによつて、反対同盟・青行隊に対し、権力への屈服か、斗いの継続かを根柢的にせまるものにおなりませぬ。青行隊は人殺しキヤンペーンと一体となつてかけられてきてい

この弾圧裁判は、直接に弾圧を受けている青行隊員やその家族のみならず、反対同盟・青行隊の組織的壊滅をねらうものである。被告としてそうでない者、「被告」の家族とそうでない者、「被告」をかかへる部落とそうでない部落といつたあたりで、反対同盟をスタスタに切り裂かんとしているのです。こうして反対同盟・青行隊を壊滅することによつて日本階級斗争史上不滅の意義をもつ東峰における機動隊の名のセシ滅を頂点とした三里塚九月決戦の地平をなきものにせんとしているのです。

の国策である。アジアに向かつての侵略反革命とそれへ向けた国内支配再編の一環としての新全統―統合農政階級に屈服することを拒み、先見を

徹した反権力闘争として三里塚斗争を闘う主体にまで成長し、全国の農民・市民・国民闘争の最先頭に三里塚斗争がのび出したことに歴史的意義があります。権力は、この

闘争の萌芽した。と言ひしのだ。そして、九月決戦をめぐり、三里塚、芝山農民は日本帝國主義の革命的打倒を闘う勢力としての一歩を歩み始めたのだ。

三里塚斗争の革命的意義の

方向は九月決戦の継続なきにほざいことと確認したければならぬであろう。

東峰裁判闘争も、ななる及一六―九月決戦の地平の継承もなきをたけ、反対同盟・青行隊の組織的攻撃に對する中心的な防護として闘い取つていこうではありません。

同時一体的に、九月決戦裁判の完全統一公判をなるとるべく、特、周辺裁判闘争の堅持・強化をはかることになつてい

### 九月決戦裁判闘の現段階

九月決戦裁判は、近年未だの通り、すでに新状況に對する本邦闘争の、機動的な展開を無視した段階に入

て、東峰被審問の闘いと連帯を確保し、権力の分断を排し、九月決戦の意義を全面的に明らかにしていこうではありません。

（一）九月決戦裁判の他に、  
（二）九月決戦一公判（赤田）  
（三）九月決戦一公判（赤田）  
（四）九月決戦一公判（赤田）  
（五）九月決戦一公判（赤田）  
（六）九月決戦一公判（赤田）  
（七）九月決戦一公判（赤田）  
（八）九月決戦一公判（赤田）  
（九）九月決戦一公判（赤田）  
（十）九月決戦一公判（赤田）

言葉によつてインペイされた  
空港建設そのものの不当性、  
権力の三里塚での暴虐の数々  
、そしてこの逮捕、起訴、全  
くのデッチ上げにもとづくも  
のであることを暴露し、新谷  
(裁判長)―遠藤(検事)体  
制の破綻をひき出してさまし  
た。(遠藤検事は、九月初め  
、その反革命ぶりを評価され  
たのち東京地裁へ「栄転」し  
た。)

この九月決戦裁判闘争の一  
定の勝利的進撃に対し、千葉  
地裁は、東京地裁なら警備員  
、暴刀逆更のみならず、森岡  
(オニ次統一公判、七月仮処  
分公判)そして阿藤(オニ次  
統一公判)と、反動的裁判官  
を尊入し、再大裁判闘争等に

おいで見られた「東京地裁方  
式」への強権的訴訟指揮、検事  
とのゆ着、警察―機動隊との  
一体化)を尊入し、一層の反  
革命的強化をおしすすめてい  
るのです。

それはオニに、裁判の事務  
処理化として、求釈明に關し  
て、釈明権は裁判長にだけあ  
るとして被告、弁護人の釈明  
権については弁護権、防御権を  
否定し、被告、弁護人の求釈  
明事項のうち、裁判長の判断  
でえらび出した(例外なく核  
心に触れた事項ははずされて  
いる)事項に限って検事に釈  
明させるという、いわゆるス  
クリン方式を採用し、又、  
口頭での求釈明―釈明ではな  
く、書面のやりとりで済ませ

るという書面一括方式を採用  
し、裁判を事務処理化し、九  
一六―九月決戦を「単なる  
刑事事件」としてしまつこと  
を狙つていきます。

オニに、このような事務処  
理化を軸に、一方で、裁判長  
の訴訟指揮権なるものを最大  
限利用して強権的な訴訟指揮  
を行ない、抵抗する被告、傍  
聴人に対しては、起訴命令―  
監置処分を乱発し、密室裁判  
化せんとしています。  
総じて早期結審―実刑判決  
策動としてあるこれらの攻撃  
にくわえて、オニに、公務執  
行妨害罪の規定を「警察官の  
生命、身体、財産に危害をく  
わえる目的をもって……」と  
「生命」を入れおき、殺人

罪適用をにおわせ、また東峰、  
タルーマ中の公務執行妨害  
、凶器準備暴行の被害に對して、  
「警察官に対する奇襲を目的  
として暴行した」というふう  
に諸動物修罪の適用をもくろ  
むという重罪攻撃をうけてさ  
まっています。

オニに、共謀共同正犯の適  
用による、逮捕、起訴のデ  
ッチあげ性をいふとすると  
同時に、重罪攻撃の全被告へ  
の拡大をねらっているのだ。

この共謀共同正犯の適用が  
全く例テタラメであることは  
言うまでもありません。遠藤  
検事は、共謀したと主張しつ  
つ、共謀の内容と形態を明  
らかにせよという、被告団、  
弁護団の要求に對して、全案

答へることをせず、「釈明  
の要なし」と虚直る方、明  
示または黙示(口頭)で意を  
統一したと主張し、オニに  
解答しつ出す、おかしな  
共謀共同正犯の適用なるもの  
の正体、本音を暴露していま  
す。

オニに、以上の攻撃を貫徹  
しやすくせんがための東峰被  
告団と若、周辺被告団の分断  
を固定化、拡大し、最大限利  
用しようとしています。

これに對し、我々はあくま  
で完全統一公判を追求しつづ  
けな反革命戦線(全国争)被告  
団を軸に、

とくに、被告団、弁護団と  
固く結合した闘いを創出して  
いこうではありませんか。

現在、裁判は検事の冒頭陳  
述に入り、更に被告の冒陳を  
至て、来年初には、いよいよ  
よ検事側の立証に入ります。  
この立証段階こそ、周到な  
研究と準備をもつて、権力の  
デッチ上げを暴露する重要な  
段階です。

とくに、被告団、弁護団と  
固く結合した闘いを創出して  
いこうではありませんか。

# 東峰被控者九一六を継承

二のうに九一六以降の  
東峰被控者九一六を継承  
する闘いを軸に、



# 〈三里塚空港—新東京国際空港建設の野望〉

一九六五年、政府が「新空港建設を内定した背景には次のようなものがある。一九五〇年より、朝鮮特需需要をテッポとして高度経済成長を経て来た日帝は、六〇年を機にほぼ戦後の復活を完了した。そして、戦後マルタ・ゴッネ

「又体制の動揺へベトナム民族解放斗争の前進ととの大後方としての中国共産党の中論争の開始、更に帝国主義の不均等発展による市場再分割戦の激化」の始まりの中を、日帝は、自らの独自利益を置くべく、米日「韓」台反革命体制を軸に、アジアへの侵略

反革命に乗りだした。この為の拠点建設として日程に上った「空港」は、朝鮮にベトナム民族解放斗争の前進により米軍機の羽田空港からの発着数が増えたこともくわり、三里塚軍事空港「建設の野望へと結実したのである。

当時の「運輸省六六年航空の長期計画」にも、「今後の航空政策は、超音速旅客機（SST）時代にどうなるか、特に六六年度にあつては、東南アジア便が六〇便であつたものを、五〇年計画で一六〇便に拡大すること、そしてインド・アフリカ諸国への進

出をとげ、東南アジアでの航空網の拡大を行ない、国際航空としての地位を築くことである」と、いふくも述べられていた。航空網の再編による、世界航空資本との競争に勝ちぬき、アジアへの新植民地主義的侵略を強め、支配圏を拡大せんと、その決意を明らかにしてあり、四次防と並んで、侵略反革命の拠点形成せんとしているのである。

そして、これら日帝の高度経済成長の過程は、同時に、国家暴力装置の一層の整備を頂点とする、体系的な口添権

力機構の強化として存在したことを見落してはならない。

急展開に見あつた、国内体制確立の重要環にしていることである。太平洋ベルト地帯への工業労働力の密着、農村の荒廃に対する、いわゆる「過密・過疎」対策と、都市に於ける公害問題・低賃金労働力の不足等々の問題を、全国土の再編合理代として、「南北シキコロメートルにわたる日本列島が一体となつて機能する」とことを目指した「新全国総合開発計画」の（注）の先取り攻撃である。そして、この攻撃は、「国益・国防」「近代化・生産力向上」という思想教育と、バラ色の未来都市

（注）「新全統」は、〇五年に作成された「全国総合開発計画」を、69年5月に全面的に書き改めたもの。前計画が「拠拠開発方式」で「新産業都市」「工業整備特別地域」を生み出したのに対し、「新全統」は、新幹線、高速道路等の交通や通信網を整備し、工業用地の条件を分散し、全土を独占資本の収奪の的にせんとするものであり、一方その「総合開発」による農業の再編、農民の分散と表裏一体のものとしてある。

あり、「三里塚空港」開港の野望は、日帝の命運をかきたものとして存在している。当時、砂川、北密王を頂点として、豊永・漁民・住民の斗争か、アジアへの侵略反革命に向けた軍事基地再編、建設に対する「反戦・反基地」斗争として勃揚する中で、三里塚斗争もこの鎖を受け継いで発

展して来たのである。更に日帝は、侵略反革命の

戦後の農業基本法、食糧管理制を柱に、豊田自作農育成、

農業の資本主義化として、農民と農地を日帝の復興に動員してきたが、一方では、侵略反革命に向けた国内体制の急確立を行うべく、重化学工業を育成し、農村から流出する労働力をフルに利用したのである。そして、5年以降の全面的乗り出しの中で、日帝は、財界からの「零細農民切り捨て」、「開港輸入」、「安上り農政」等の要求を受け、

# 〈開港反対斗争前史〉

千葉県の中でも、三里塚を中心とする北総台地の畑作地帯には、巨大地主や大牧場が各所に散在し、三里塚地区は

内容を「総合農政」として打ち出した。しかし、農基法農政なら、総合農政への転換は、単に育成から分解、切り捨てへの乗り切りではなく逆に、農民の「小生産者」としての立場を「利益・国防、生産力向上」で反動的にあり「日共の「民主化農政」はこの野望を左から支えるものに他ならない」、侵略反革命に向けたマルジョアジーの同盟軍に、農民を「寄せる為

とを見落してはならない。  
(注)「総合農政」は、69年の米価据之置と自主流通米制による食糧管制の解体、切金の農地法改訂、農地の売買を容易にする目的を以て、バ、クに、農業振興地域整備法、オ二次構造改善事業、新都市計画法等を軸にして打ち出された。管理機関の統合、権限の拡大を以てなり農業の再編を一挙に押し進めんとしたものである。

の、一層露骨な攻撃である。下総御料牧場をはじめ、国有・私有地が村の大半を占めていた為、戦後の農地改革を軸とした食糧増産政策の過程で

農地解放斗争は最も激しく行われた。戦後、二度にわたった行なわれた下総御料牧場解放斗争と、旧千代田村(芝山町北部)に於ける強権供米拒絶斗争は最も代表的である。

戦前より巨大地主の小作人として、過酷な搾取と口券権力の収奪にあつてきた農民、皇室財産の管理の為、強制労働に狩り出された農民、その他、戦争罹災者、海外引揚者などの帰農者は、地主的土地所有の完全解体と、農業振興による農民の解放を目指して農地解放を闘い、これによって御料牧場は半分近くが解放された。

と農業資材の値上り等がある。以年々55年にかけて、三里塚、旧千代田村、富里の農民は、三里塚御料牧場解放同盟を組織し、御料牧場の全面解放、保安隊曉部隊の御料牧場における軍事訓練の中止、再軍備反対を掲げて斗争を展開した。こうして、農地改革の不徹底、解放斗争の圧殺にあって残された土地が、現在、三里塚空港用地や、代替地となつているのである。

農工四全から工業界へは交唱の氷、太平洋ベルト地帯の戦略的拠点として、京葉工業地帯の建設とこのための印旛沼干拓事業、成田市構造改善事業などが始められた。  
(注)一九五三年、世界的な小麦の過剰状態が続く中で、米帝は、MSA(相互安全保障)による援助と銘打って、日本に対する余剰麦の売り付けを開始した。

しかし、朝鮮戦争の特需景気とその後の不況、農村の二三男の失業の増大の中で、オ二の御料牧場解放斗争が闘われた。この背景には、MSAの補定(注)による余剰麦の輸入の為、米価の実質的な切り下げ、蔬菜・畜産物価の下落

その後、資本の高度成長と農産物の過剰によるバランスの崩れに対し、時の河野政府は、農政資金を金融緩和資本の強者種につぎ込み、片や直営直産、安上り農政を打ち出した。千葉県においても、

この農政の転換の由で、工業への人口流出、兼業農家の増加を一定余儀なくされつつも、三里塚、芝山地区では、斗争の伝統を引き継いで形成、強化されてきた農民組合(芝山農協、丸塚出有組合、丸

朝園芸協等しを軸に、技術  
や資材の改革、水稲多収獲方  
式から雑穀、商品作物造りへ  
の転換を積極的に推進し、農  
業破壊と并峙してきた。そこ

# 富里から三里塚へ

一九六五年、一月一八日  
政府は、新東京国際空港関係  
協議会に於て、抜き打ちに、  
富里、八街への空港設置を、  
内定した。しかし、このや  
う口は富里、八街のみならず、  
周辺市町村の農氏の大規模な  
反対斗争を引き起こし、富里  
及び同盟の果行突入斗争等へ  
と発展していく中で、政府は  
断念を余儀なくされ、富里空  
港案は窮地に追い込まれ、  
まぼろしの空港、同然になっ

て、とりわけ芝山町に於ては、  
これらの農協を組織団体とし  
て、空港反対同盟が結成され

った。それからわずか半年足  
らずの六六年六月二二日、空  
港は突如三里塚に移された。  
侵略反革命の執事建設にせ  
る日帝と、空の玄角を千葉果  
への野望を統合した反和の  
果知事らは、反対斗争の再然  
を恐れ、空港の位置を御料  
牧場や果有林が多く、民有地  
の比較的広い三里塚に移し、  
規模を予定の二分の一にする  
ことと手を打ち、一挙に乗り  
出して来たのである。

続く六月二五日、反和の指令  
を受けた成田市長は、地元区  
長を招請し、空港設置の策申  
会を開催した。しかし、  
結集した三里塚地区の農氏は、  
富里空港当時からいまいな  
態度をとり続けていた市当局  
に罵倒をまじせ、「富里の農  
氏も、政府や果と斗って勝つ  
たのだ。俺らにも勝たわえわ  
けはわえ」と決意を打ち立て  
た。そして、即日、三里塚空  
港反対同盟は結成されたので  
ある。二八日、反対同盟は、  
三千名の農氏を結集して「空  
港反対飛込大会」を開催し、  
三〇日には、芝山町に於て「  
芝山農協全組合員大会」で空  
港設置粉砕の決議がなされた。

# 闘争史年表

事態の推移を慎重に静観注視するとし  
所信表。

3. 1 中村運輸大臣、橋本官房長官、森自  
民党千葉県連会長の三者会議。

新国際空港関係閣僚協議会、新空港  
推進協議会設置決定。

3. 4 政府は閣議で内閣に「臨時新東京国  
際空港関係閣僚協議会発足。これによ  
り土地買収、補償問題を検討し、富里  
建設の閣議決定準備

3. 10 第一回臨時東京国際空港関係協会開  
催。

3. 11 自民・新東京国際空港推進本部初会  
議。①富里問題を基本的に検討。  
②富里以外についても検討。

3. 23 「新国際空港即時粉砕、佐藤内閣抗  
議総決大会」富里、八街空港反対同盟  
主催二五〇〇人結集。社公党、佐々  
本委員長参加。

4. 12 運輸省の佐藤航空局長・手塚参事官

35

11. 8 関係閣僚懇談会、豊川浦は空港補  
地として適当でない旨を了承。新空  
港の位置を千葉県富里地区に決定。

2. 7 富里八街新空港反対同盟一五〇〇人  
のデモ隊、千葉県庁に突入。川上副  
知事に抗議文をたたきつける。

2. 16 空港反対デモで、県庁内に入った反  
対同盟三人が千葉中史署に設置逮捕さ  
れる。二〇〇余人はただちに県警本  
部長および知事に対して抗議斗争を展  
開。翌日、三名の釈放を勝ち取る。

2. 28 反和武人千葉県知事は県議会冒頭の  
挨拶で富里空港問題について、「政府  
に對しては条件の提示を求めず、地元  
住民に對しては説得の態度をとらず、

は衆院に河野社造副委員長を訪ね、空港用地として富里、八街が最適地である旨説明する。

5・13 川島自民党副総裁は、「富里に空港をつくるのは困難だ。時間も金もなかり過ぎる。改善の策として羽田を拡張し、木更津沖と一体として空港建設をすべきだ。」との「新提案」

5・18 富里、八街空港反対同盟は農地不売運動(マンモス登記運動)を開始。周辺の八農業協同組合に反対運動を要請する。

6・17 中村運相は川島自民党副総裁に、木更津沖に新空港を建設することは、①航空管制上重大な難点がある。②都心に遠い。③不適当と伝える。川島副総裁は、友納県知事呼び、この中村運相の報告を説明し、さらに、自民党政調会のおっせん案として、三里塚に空港を建設することについて説

明する。  
6・22 友納知事は佐藤首相と会談、協議。  
6・28 成田、芝山農民三千人は遠山中学校校庭に集会し、「新国際空港反対総決起大会」を呼び、空港建設反対を決議。三里塚空港反対同盟結成。  
6・29 県議団副会長岡頭知事は、新空港を成田の三里塚地区への設置計画について「政府が地元住民の補償対策に誠意をなたむけて全力を期すならば了承せざるを得ない。」と所信表明。そのあと空港計画を発表。  
①敷地は国有地、県有地を中心として一〇六〇ヘクタール。  
②滑走路は四〇〇〇メートル、二五〇〇メートルの二本とする。  
6・30 「三里塚空港設置反対、全組合員大会」芝山町農協主催、芝山中学校に一五〇〇人参加。成田、八街、富里、三里塚の農民代表も参加。大会後、県

庁、成田市長に大挙して抗議に向う。  
7・2 芝山町空港反対同盟一〇〇人と成田市農協組合員二〇〇人参加に抗議行動。芝山町、勿古町各反対同盟と支援部隊総勢八〇〇人は知事、県議会議長、自民党県連に抗議。

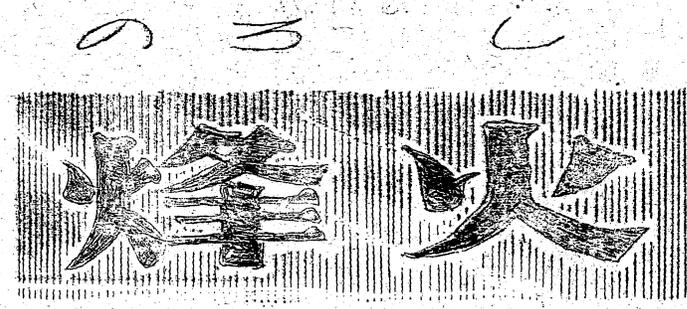
7・8 成田市遠山地区の東峰、駒井野、取香、各部落の農協組合員六〇人は、市当局に対し、一九〇〇人の署名簿を提出して空港絶対反対を訴える。

7・10 「新空港閣議決定粉砕総決起大会」三里塚空港反対同盟、芝山町空港反対同盟主催。三里塚公園、四千名結集。当面の運動方針は、①組織を細分化し、部落内に班を編成する。  
②土地収用を困難にするため、「一坪買

い運動を実施する、等。

(以下次号)

戦労働者・学生・政治新聞のろしを讀もう。  
共産主義者同盟(全国委員会)



大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄中通3-33  
TEL (06) 371-3706  
東京戦旗社 TEL (03) 650-4271

三里塚軍專空港粉碎！  
 岩山火鉄塔死守！  
 鉄塔破壊用道路建設実力阻止！  
 第三次強制収用策動粉碎！  
 資材輸送道路建設実力阻止！  
 三里塚裁判闘争勝利！  
 了口一于工了死守！  
 産土参道実力防衛！  
 新全統！総合農政粉碎！  
 農振法粉碎！

戦線を広げ、戦場を広げ、三里塚現場を襲せよ！  
 三里塚空港粉碎！  
 裁判闘争勝利！

# 執念城

編集 三里塚第二次強制収用阻止斗争  
 東峰統一被告団

発行 三里塚空港粉碎青年行動隊

三里塚

全国通信

発行日 1974 . 10.

頒 価 150 YEN.

発 行 反南戦線(全国委)三里塚現闘

連絡先 千葉県山武郡芝山町

大里2499番地自科団結小屋